

平田地区で「古文書調査現地説明会」を開催しました!

平成28年7月24日(日)に平田公民館で開催された平田地区茶話会の場をお借りして、現在、市史編さんグループにて借用・調査中の「平田区有文書」に関する現地説明会を開催しました。平田区有文書は、平田公民館内で保存されていたもので、古文書箱(段ボール箱)にして9箱分、1096点の18世紀(江戸時代中期)から昭和30年代までの資料が含まれていました。

説明会当日は、平田地区の住民のみなさん約30名の方々にお集まりいただき、江戸時代の平田村の姿や、太平洋戦争中の住民生活の様子など、現在までの調査の中で、地域の史料から見てきた地域の歴史についてお話ししました。

市史編さんグループでは、今後も地域に残された歴史資料を調査していくとともに、その成果を住民のみなさんと共有しつつ、市史編さん事業に活かしていきたいと考えております。

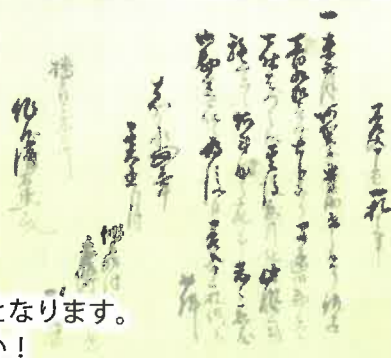


三木の古い資料や写真の情報をお寄せください!

市史編さんグループでは、三木の歴史について幅広く調査を行っています。

- ◆ くずした文字で書かれた帳面や一枚ものの文書などの古文書
- ◆ 和紙に書かれた冊子などの古い本
- ◆ 明治・大正・昭和の古いノートや記録(日記・手紙など)
- ◆ 三木市域の古い写真、絵画、映像など
- ◆ 自治会などの団体、地域でのグループ活動などの記録や資料
- ◆ 古いふすまや屏風(古文書が下貼りに使われていることがよくあります。)

みなさんのお近くにある古い記録類は、お家や地域の歴史を物語る大切な歴史資料となります。上記のような資料の情報をお持ちの方は、ぜひ市史編さんグループまでご一報ください!



市史編さん日誌(平成27年10月～平成28年7月)

平成27年10月23日	三木市立中央図書館資料調査
平成27年11月23日	平田自治会所蔵史料調査(神戸大学文学部日本史学研究室と共同)
平成27年12月2日	三木市立総合隣保館アーカイブズ作業視察
平成28年2月23日～24日	神戸大学文学部古文書合宿(於・旧玉置家住宅)
平成28年2月26日	座談会「三木の戦中・戦後を語る」開催(於・中央公民館)
平成28年3月23日～25日	新潟県十日町市・長岡市視察
平成28年3月31日	新三木市史研究紀要『市史研究みき』第1号発行
平成28年4月27日	久留美地区より古文書・絵図借用
平成28年5月5日	「みき歴史資料館」オープン、同館2階に市史編さん室が設けられる
平成28年6月15日	志染地区・御坂神社古文書調査
平成28年6月21日	神戸電鉄本社資料調査
平成28年6月22日	市史編さんボランティア作業(於・みき歴史資料館市史編さん整理室)
平成28年6月28日～29日	借用絵図撮影作業(平田地区・久留美地区・吉川町上松地区)
平成28年7月13日～14日	市史編さんボランティア作業(於・みき歴史資料館市史編さん整理室)
平成28年7月24日	平田自治会所蔵史料現地報告会(於・平田公民館)
平成28年7月27日～28日	市史編さんボランティア作業(於・みき歴史資料館市史編さん整理室)

市史編さんだより 第2号(平成28年12月20日発行)

編集: 三木市教育委員会教育企画部文化スポーツ振興課市史編さんグループ
発行: 三木市教育委員会

連絡先: 市史編さんグループ
〒673-0432 兵庫県三木市上の丸町4-5 みき歴史資料館2階
電話 0794-83-1120 / FAX0794-83-1190

市史編さんだより 第2号

「第1回新三木市史編さん委員会」を開催しました

平成28年9月16日(金)、三木市役所において「第1回新三木市史編さん委員会」を開催しました。編さん委員会は、市史編さん事業を進めていく上での方針や、基本的な枠組みなどを審議・決定していくための委員会となります。

当日は松本教育長の挨拶のあと、各委員に委嘱状が交付されました。市史編さん事業は市と神戸大学との連携事業として行われるため、委員は市教育委員会から2名、神戸大学から2名が選任されたほか、市文化財保護審議会委員2名、市民公募委員2名の構成となっています(委員は下記のとおり)。

また、委員長には松本教育長、副委員長には神戸大学の奥村教授が選任されました。

当日は、市史編さんの事業概要と基本計画が決定され、編さん事業を本格的に進めていく基本体制が整いました。



新三木市史編さん委員

委員長	松本明紀	(三木市教育長)
副委員長	奥村弘	(神戸大学大学院人文学研究科教授)
	市澤哲	(神戸大学大学院人文学研究科教授)
	尾立和則	(三木市文化財保護審議会委員)
	宮田逸民	(三木市文化財保護審議会委員)
	田中隆次	(市民公募委員・志染歴史倶楽部代表)
	藤田均	(市民公募委員・よかわ歴史サークル代表)
	西本則彦	(三木市教育委員会教育企画部長)

「市史編さんボランティア」活動中です!

新しい市史では「住民参加によって自治体史を編さんする」とのコンセプトのもと、市民の皆さんと一緒に市史を作り上げたいと考えています。その一環として、市史編さん事業にご関心のある市民のみなさんによる「市史編さんボランティア」の活動を開始しました。

市史編さんボランティアの活動は、古文書の解読や写真撮影、現地調査活動、普及啓発活動など、市史編さん事業を進めていく上で必要な作業についてお手伝いいただくことで、三木市域の歴史文化遺産を皆さんと一緒に後世へ伝えていこうという取組です。現在は毎週水・木の月8日程度、市史編さん整理室(みき歴史資料館2階)にて、三木市域の史料の解読作業や写真撮影を行っています。作業は、古文書の読めない方でも大丈夫です。一緒に三木の宝である文化歴史遺産を残していく活動をしませんか?

市史編さんボランティアに関心のある方は、市史編さんグループ(連絡先は4ページに掲載)までお問い合わせください。



市史編さんシンポジウムを開催しました!

平成27年9月26日(土)、中央公民館4階大ホールにて、市史編さんシンポジウム「新三木市史に期待する」(主催:三木市、三木市教育委員会、神戸大学)を開催しました。

このシンポジウムは、市史編さん事業を通して三木の歴史を未来へ継承するとともに、市民協働によるまちづくりにつなげていくきっかけとするため開催し、約150人の参加者にご来場いただきました。

シンポジウムでは、まず奥村弘神戸大学大学院人文学研究科教授による「新しい時代の市史編さん—地域の記憶を地域の中で未来に伝える社会形成のために—」と題する趣旨説明が行われました。

続く基調講演では、まず初めに坂江渉先生(兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室研究コーディネーター)による「『播磨国風土記』と新三木市史の刊行に向けて」、続いて板垣貴志先生(島根大学法文学部准教授)より「市史編さんとまちづくり」と題してご講演をいただきました。

次いで奥村先生がコーディネーターとなり、基調講演をいただいた坂江、板垣両先生に加え、市民代表として進藤輝司さん(三木古文書研究会)、木梨美知子さん(ガイドボランティアみき)にご登壇いただき、パネルディスカッション「新三木市史に期待する」を行いました。パネルディスカッションではパネラーのみなさんのほか、当日会場にご参加のみなさんから市史編さんに対する思いや希望を語っていただき、約1時間、活発に議論されました。

最後に、主催者側を代表して北井信一郎副市長が「新しい市史では、三木市民の気持ちを込めた市史を作っていく」との閉会挨拶を行い、シンポジウムは終了しました。

なお、シンポジウムの記録については、紀要『市史研究みき』第1号(500円で販売、詳細は次ページ)にて掲載しています。



座談会「三木町の戦中戦後を語る」を開催しました!

平成28年2月26日(金)、中央公民館にて座談会「三木町の戦中戦後を語る」(主催:三木市教育委員会、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター)を開催しました。

座談会には森本芳明さん、丸橋つるゑさん、宮田博文さんの大正生まれの3名の方にご出席いただき、進藤輝司さんおよび川内淳史(神戸大)、廣井愛邦(三木市教委)による司会進行のもと、約2時間にわたって出席者の方々の幼少期から青年期についてお話しいただきました。

座談会では、昭和7年(1932年)に発生し、滑原町を中心に大きな被害をもたらした大水害の話に始まり、戦前の三木の街の様子、太平洋戦争下での暮らしについて、終戦直後の生活の困難、戦後の三木の発展と三木市の成立について、またこれからの三木のことについてなど、三木市の歴史にとっても激動の時代を生きた皆さんの体験や考えについて、大いに語っていただきました。

座談会の記録は、紀要『市史研究みき』第1号にて掲載しています。市史編さん事業では、市民のみなさんの経

験や記憶を後世へ伝えるために市史編さん事業へと活かしていきたいと考えており、今後もこうした座談会や聞きとり事業を継続的に実施していく予定です。



森本 芳明さん



丸橋 つるゑさん



宮田 博文さん

新三木市史研究紀要『市史研究みき』の刊行

このたび市史編さん事業の一環として、研究紀要『市史研究みき』を刊行しました。『市史研究みき』では、市史編さん事業に関わる調査・研究報告や、市内

での歴史文化に関わる様々な動きを皆さんにお伝えするため、年1回程度の発行を予定しております。創刊号は以下のような内容です。

『市史研究みき』第1号

▶市史編さんシンポジウム「新三木市史に期待する」

奥村 弘「新しい時代の市史編さん—地域の記憶を地域の中で未来に伝える社会形成のために」
坂江 渉「播磨国風土記と新三木市史の刊行に向けて」
板垣貴志「市史編さんとまちづくり」
パネルディスカッション「新三木市史に期待する」(坂江渉、板垣貴志、進藤輝司、木梨美知子)

▶座談会「三木町の戦中戦後を語る」(森本芳明、丸橋つるゑ、宮田博文)

▶史料紹介「記録簿 第拾区第四組」(川内淳史)

『市史研究みき』は定価500円(税込)にて、みき歴史資料館、教育委員会文化スポーツ振興課窓口(市役所5階)にて販売しております。

また『市史研究みき』では三木市の文化・歴史(時代は問いません。)に関わる投稿を募集しております。募集している原稿のジャンルは、三木市の文化・歴史に関わる論考や資料紹介のほか、市民

の皆さんによる調査報告や活動紹介についても受け付けております。詳しくは、下記の「投稿規定」をご参照ください。

ご不明な点につきましては市史編さんグループまでお尋ねください。みなさまからの積極的なご投稿をお待ちしております!



『市史研究みき』投稿規定

◇掲載原稿のコンセプト

三木市に関する文化・歴史に関するもの(時代は問いません。)

◇原稿のジャンルと規定枚数(すべて挿入図版を含む)

- 1 論考(10~70枚程度)
- 2 資料紹介(10~70枚程度)
- 3 その他、三木市の文化・歴史に関する調査報告や活動紹介など(3~20枚程度)

◇原稿の様式

- 1 手書き原稿、ワープロ原稿を問いませんが、必ず完成原稿でご提出ください。
- 2 ワープロ原稿で提出の場合
 - (1) 原稿は、プリントアウトしたものと、データ(図版等含む)をCD-R等の記録媒体に収録したものと両方お送りください。
 - (2) 写真・図版・表などは、本文に割り付けず、別途ファイルをいただくようお願いいたします。(プリントアウト原稿におよその位置をご指示ください。)
 - (3) 本文・図版・表などの体裁については、編集上の都合により、調整させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。
- 3 注は、本文の末尾にまとめて付けてください。

◇注意点

- 1 著者校正は原則1回を予定(誤植程度の訂正のみ)しています。
- 2 寄稿原稿は、教育委員会において検討の上、採否を決定します。
- 3 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行いません。

◇投稿先

〒673-0432 兵庫県三木市上の丸町4-5 みき歴史資料館2階 市史編さんグループ 宛